

「子どもの日」を祝うとともに、次代を担う子どもたちに北方領土の正しい認識を図るため、市教委主催と、地域子ども育成連絡協議会や、根室西ロータリークラブなどの共催で、北方領土「第45回子どもの日のつどい」が、市総合文化会館で行われ、会場には、過去最高の延べ二千人の親子連れなどでにぎわいました。



大人気のゲームコーナーの「輪投げ」にも長蛇の列



ミニ絵本の完成に喜ぶ山崎菜生さんと弟光聖くん

過去最高の二、一〇〇人あつとつう間の3時間 「第45回子どもの日のつどい」



ヨーヨー救いを楽しむ子どもたち

ニ絵本作成コーナー、市職員などによる紙芝居や絵本の読み聞かせ、マジックショーなどが行われたほか、「北方四島の自然を知ろう」のパネル展が同時開催されるなど、来場者はそれぞれの催しものを楽しんでいました。

2階を会場に行われたダンスなど6種類のゲームコーナーには、5種類以上に参加し200ポイント以上で、特別な景品

が当たる抽選とあって、どのゲームも長蛇の列ができるほどの人気ぶり。

また、会場駐車場の記念撮影コーナーでは、消防車やパトカーなど6台の「はたらくくるま」に普賢乗れないとあって、運転席に乗って行う記念撮影に、子どもたちが殺到していました。

子どもの日のつどいに始めて参加したという成央小3年の山崎菜生さんは、手作りのミニ絵本に参加し、「自分

の本ができてうれしい」と笑顔で話してくれました。今年は、昨年の4倍以上の来場者で、昨年に比べ新たな催しものも増え、子どもたちは満喫した1日となりました。

「健康で明るい毎日をと」を 地域医療講演会

15/11



一般市民を対象に健康について広く啓蒙を行うことを目的に、「地域医療講演会」が社会医療法人孝仁会主催と市共催のもと、市総合文化会館において行われ、市民約200人が詰めかけました。

講演では、孝仁会から齊藤孝次理事長と稲垣徹医師が、腰や首にまつわる病気の治療方法、脳卒中や脳梗塞などの特徴・兆候などを画像を交えてわかりやすく紹介してくれました。市立根室病院の東浦勝浩院長が、「病は気から」と、根室市民の特徴を交えて呼びかけました。参加した市民は時よりうなずいたり、メモをとるなど、真剣に聞き入っていました。

根室の移住を支えるキーマンに 市移住交流促進協議会

15/13

市移住交流促進協議会が市総合文化会館で開かれ、一昨年根室に移住した、ジュエリーデザイナーの古川広道さんと、昨年移住した、海外の雑貨を扱う中島孝介さんの二人を「根室市移住アドバイザー」として委嘱しました。

同協議会の会員でもある二人に、実際の移住者の視点を取り入れ、より効果的かつ効率的な事業展開を図るために、移住アドバイザーとして、各種プロモーション活動に同行してもらい、根室市のPRや来場者への生活相談に乗ってもらい、また、移住交流事業に対してさまざまな助言をいただくなど、二人には、今後の活躍が期待されます。



委嘱状を手に持つ、古川さんと中島さん（左から）